

農林水産省 東北農政局 秋田県拠点

秋田ニュース

秋田県拠点では、管内農業者及び関係者等の地域活性化に向けた取組を紹介します

Stationed at Akita Prefecture Area,
Tohoku Regional Agricultural Administration Office

教育現場でのGAPの取り組み進む



コンサルタント会社の指導員を講師に、GAPを学ぶ生徒たち
(画像提供：秋田北鷹高校)

秋田県内の農業系の高等学校で、GAPへの取り組みが進んでいます。秋田県立秋田北鷹高等学校では、米（粳・玄米）でJGAPの認証を取得しました。

高校生のこのような取り組みは、地域の農業者に普及していくきっかけになることが期待されます。

作物班の3年生7名を中心に
GAPを実践

～秋田北鷹高校 生物資源科～

秋田県立秋田北鷹高等学校（北秋田市、青山仁校長）が、昨年12月に米（粳・玄米）で、県内の高校では初めてのJGAPの認証を取得しました。



コンサルタント会社によるGAP学習
(画像提供：秋田北鷹高校)

同校では、農場の教育方針を「魅力ある農場運営に取り組み、食品安全、労働安全、環境保全、人権擁護の目的のもと、安全・安心な農産物を提供できるように、農場管理の仕組みを持続的に改善する」と定め、GAP教育を授業に取り入れています。

認証取得に際しては、生物資源科作物班の3年生7人が中心となって、コンサルタント会社の指導を受けながら、JGAP基準に適合した生産工程の構築、管理マニュアルの策定を行い、その実践に取り組んできました。



認定書を手にする作物班の3年生7名



コンサルタント会社によるGAP学習
(画像提供：秋田北鷹高校)

生徒たちは、「今まで見過ごしていた現場の安全面での問題点に気づくようになった。認証取得できたことは大変うれしい。」「たくさんの書類作成が大変だったが、県地域振興局や先生の指導で何とかやりきれた。」と話しています。

また、指導にあたった佐藤教諭は、「不備を指摘された施設を改修するための経費捻出に苦労した。今回の米に加え、将来的には野菜や果樹でもGAP認証取得は必要と考えるが、学校としての認証取得については今後の課題だ。」と話しています。

作物班では、今回GAPに取り組んだメリットを「①責任の明確化と相互の作業確認に役立つ、②全員でルールを作成することで農作業の改善になる、③ミスやロスを防止することでリスクが軽減できる、④管理基準を学ぶことで社会人になってからも活用できる」とまとめています。

また、同校では、「意識して農場経営に携わることができた。このような経験は将来、地域へ貢献することにもつながる。農業の持続可能性を確保し、食の安全・安心を確保することは農業高校の使命でもある。」としています。

4月からは、現在の2年生の作物班6名が、この取り組みを引き継ぐことになるとのことです。



JGAP認証審査
(画像提供：秋田北鷹高校)

秋田県拠点から

GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことです。農林水産省では、多くの農業者、産地で取組が実践されるよう、そのPRや認証取得に向けた支援を行っています。

農業高校や農業大学校における取組も進んでおり、生徒・学生がGAPを学び、自ら実践することで、農業生産技術の習得に加えて、経営感覚を兼ね備えた人材として必要な資質・能力の育成に資することが期待されています。平成31年1月末現在、全国で41校の農業高校が、第三者機関によるGAP認証を取得しています。(GLOBALG.A.P.: 19校、ASIAGAP: 7校、JGAP: 17校)

GAPについては、農林水産省のホームページ(www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/)をご確認ください。

* 参考：秋田県版農業生産工程管理 (秋田県版GAP)
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/30194>

東北農政局 秋田県拠点 地方参事官室

〒010-0951 秋田市山王7-1-5 TEL: 018-862-5611 FAX: 018-862-5340

URL : <http://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/akita/index.html> Eメール(総合窓口) : sanjikan-info-ak@maff.go.jp